



袋井あやぐも学園
袋井市立袋井中学校だより



— 自主・協同 —

～夢を追い続ける生徒の育成～

令和7年9月30日発行

幼小中一貫カリキュラムにより自主（Iの力）と協同（Weの力）を育成する学園

今年度の全国学力・学習状況調査の結果を受け、本校で結果を分析し、本校の生徒に見られる表れを中心に絞って以下に記述しました。

全国平均正答率を「☆☆☆」とした場合の本校生徒の正答率			
高い☆☆☆☆☆	やや高い☆☆☆☆	やや低い☆☆	低い☆

全国学力・学習状況調査結果（3年生）

国語	要領の領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	話すこと聞くこと	書くこと	読むこと
	問題形式	☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆
数学	要領の領域	数と式	図形	関数	データの活用
	問題形式	☆☆	☆☆☆	☆	☆☆☆
理科	要領の領域	エネルギー	粒子	生命	地球
	問題形式	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆	☆☆☆

成果と課題及び、指導の改善点

教科	成果と課題	指導の改善点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」の正答率は、全国に比べて高い結果でした。特に「自分の考えが伝わるよう根拠を明確にして書く」ことが得意な生徒が多いことが分かりました。 ●「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が全国平均に比べて低く、文脈に即した漢字の使い方や、語彙の理解が不足している点に課題が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が低い結果でした。国語科の授業だけでなく、自選学習や読書活動を推進していきます。 ・「根拠を明確にして考える」ことが苦手な生徒が多いため、説明文等の学習で、事実と主張の的確に読み取る活動を充実させていきます。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○「図形」「データの活用」の正答率は全国平均とほぼ同じでした。証明問題を論理的に考えたり、相対度数を求めたりするなど、基本的な問題には意欲的に取り組み、正答に導くことができる生徒が増えました。 ●「関数」の正答率が低く、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「文字式を使って理由を説明する問題」や、「関数を使って正答を求める問題」の正答率が低いため、筋道を立てて考えたり、その考えを記述したりすることに対する苦手意識があると考えられます。そのため、授業の中で根拠を基に説明する活動に取り組み、学力の定着を図っていきます。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○「エネルギー」「粒子」に関する領域の正答率は、全国平均よりも高い結果となり、問題文や観察実験から分かることについて、自分の考えを科学的に表現しようとする生徒が多いことが分かりました。 ●「生命」「地球」に関する領域の正答率が低く、地層の連なり方などの時間的・空間的な見方に課題が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地層の連なりに関する問題の正答率が低い結果となりました。特に、各地点の地層の様子と高さを合わせて考える空間的な見方に課題があると考えられます。そのため、事象を覚える（学習内容を暗記する）だけでなく、多角的な視点で活動に取り組み、学力の定着を図っていきます。

生徒質問調査の顕著な結果（3年生）

※[]の数値は、全国調査と比較した「はい」と回答した生徒の割合

<○本校生徒のよいところ>

- ・人が困っているときは、進んで助けていますか [+ 11.7%]
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか [+ 7.0%]
- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか [+ 6.2%]
- ・1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。 [+ 8.1%]
- ・学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか [+ 10.6%]
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか [+ 13.6%]
- ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか [+ 5.8%]
- ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか [+ 9.2%]
- ・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか [+ 17.4%]
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。 [+ 15.3%]

<●本校生徒の課題>

- ・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか [- 8.6%]
- ・理科の勉強は得意ですか [- 3.8%]

この報告は、今年度の全国学力・学習状況調査（以下「全国学調」）の結果を分析し、本校の生徒に見られる表れに的を絞って記述しています。

まず、全国学調の結果から、各教科における成果と課題が見えてきました（詳細は、表面をお読みください）。毎年実施される全国学調の結果を受け、どの教科においても、正答率が高まるような工夫をしながら授業を進めてきました。さらに、「無答率（解答に何も書かなかった空欄の割合）」を減らせるよう努めてきました。具体的には、授業で分かったことをまとめたり、授業への取組を振り返ったりする場面でワークシートに記述したり、ロイロノートに入力したりしてきました。その結果、**今年度は、ほぼ全ての問題で無答率が全国平均を下回りました**。これは、生徒が難しい問題でも投げ出すことなく、しっかりと解答していることを表しています。「学び」に対する意識の高まりを感じます。

次に、生徒質問調査については全国平均と比べ、肯定的に回答している項目が非常に多いということが分かりました（記載しているのは一部抜粋）。特に、**学級での話し合い活動を通して、より良い自分、より良い集団になろうとしていることが分かります（上記、赤字の項目）**。今後も生徒達の自治的な力で、袋井あやぐも学園が目指す「夢を抱き、たくましく次の一步を踏み出す15歳」の姿に近づくよう、教育活動を進めていきます。反面、課題については、上記の2項目で全国平均を下回る結果でした。私たち大人も経験があるように、中学生の間は「なぜ、学ぶのか」、「今、学んだことが将来どんなことに役立つのか」が分かりにくいのかもかもしれません。授業内でも生徒に伝えていきますが、**ぜひ、御家庭でも「今、学ぶことが将来の何に役立っているのか」について、みなさんの経験をお子さんに伝えていただけたら幸いです**。

今後も、中学校だけではなく、袋井あやぐも学園内の幼稚園・こども園・保育園、小学校とも課題を共有し、連携しながら課題の改善に向けて進めていきます。御家庭とも連携・協力をしながら改善をしていきたいと思っておりますので、御理解・御協力をよろしくお願いいたします。